最良最新印刷器械

今回本社が英國倫敦のアール ホー會社に注文して特に製造せしめたる卷紙印刷完成器械は最良最新のものにして八面乃至二十四面の時事新報を印刷し裁切し綴付け折疊みて直ちに讀者に配布する樣、完成するの結構を具へ一時間の速力は實に二萬四千部にして歐米の新聞紙印刷場に於ても第一流に位するものなり頃日此器械の組立漸く終る由て來る三月一日より之を運轉して新報の印刷業務を一新すべし此大器械の運轉は實に我印刷業を革新して今後の新報に幾多の改良を與ふるの具たるべく我國の新聞紙印刷場に斯る器械の運轉を見るに至りたるは我文運進捗の賜なりとして之を祝すると同時に讀者平生の愛顧、我社運をして茲に至らしめたるを謝せずんばあらず

記事配置の整理

時事新報の如く日々の紙面に記事多きものは其種類に依て之を區別し同種のものを一處に集錄して閲讀の便を圖るの必要あれども如何せん從來の印刷器械にては煩雜の揉合之を許さず異種異樣の事項雜然同一紙上に混入されしも今後は之を整理して分類判然大に閲讀の便を增すべし

配達の迅速

新器械の運轉と同時に本社は配達法に大改良を加へ府下の配達、地方の郵送共に快速を勉め時刻を誤るが如き事なかるべし

内外各地の通信

本社は今後内外各地に通信員を增置して大に電信郵便の報道を增し世界重要の出來事は日々の紙上に網羅して遺漏なきを期す目下略ぼ其準備を終ったれば日ならず以て内外概要の地に本社の通信員を見さる處なきに至るべし

時事新報の用紙

時事新報は今後其紙上に諸種の廣告を挿入せんとし今や其計畫中にあり廣告挿入には今の紙色頗る適せざれば印刷の鮮明を期するが爲め新器械の運轉と同時に白紙を用ふる事となしたり

記事の區域擴張

時事新報は只管讀者に利益する所あらんが爲め記事徒らに高尚に過ぎ報道事項の區域尚ほ狹少に失するの憾あり由て今後は高尚の部分に就ては益々高尚を極め日常卑近の事項も亦之を漏さず社會細大の出來事悉く之を紙上に網羅し一新報のみにて諸種の新聞紙を併せ讀むの便あるを期すべし

小説の掲載

今後の時事新報は勉めて紙面を廣くし小説の一欄をも新設して讀者清閑の娯樂に供すべし

廣告料の改正

時事新報は今の廣告料は去る明治廿二年中に定め其後廿[illegible]年に至り物の[illegible]なし是れ廣告料の[illegible]を加へたるのみにて今日まで[illegible]の[illegible]を[illegible]ざりしなり左れど發賣紙數の數倍せる今日[illegible]りては到底[illegible]にて忍ぶ可からず由て來る三月一日掲載の分よりは廣告料を左の如く改正す

一行に付
一回限掲載の分　十七錢
二回以上六回以下掲載の分　同　十六錢
七回以上掲載の分　同　十五錢

三月一日の時事新報

來る三月一日よりは新器械の運轉を始むるが故に當日の新報は臨時に數頁を增刷して全國各地に配布し聊か始運轉の祝意を表す當日の紙上に廣告を掲げんとせらるゝ方は成る可く速かに申込みありたし

福翁百話

福澤先生が去年來心を籠めたる福翁百話は一句も先生の手に成りて他人の筆を交へず我社員に於ても未だ見ざる所のものなれども其由來は先生自筆の序言に詳なり我輩は江湖の讀者と共に其發兌を待つ者なり

東京々橋區南鍋町　時事新報社識白

明治二十九年二月

福翁百話序言

開國四十年來我文明は大に進歩したれども文明の本意は單に有形の物に止まらず國民全體の智德も亦之れに伴ふて無形の間に進歩し變化して以て始めて立國の根本を堅固にするを得べし余は元來客を悦んで交る所、頗る廣し語次往々此邊の問題に論及したるのみと雖も一時の雜話なれども客散ずれば一時の雜話なれども意に留めざるの常なりしかども左りとは殘念なりと心付き去年來閑を偷んで筆を執り曾て人に謂りし其話を記憶のまゝ夫れ是れと取集めて文に綴り其文漸く積んで凡そ百題を得たり依て之を福翁百話と名け時事新報に掲載するるやに決し本年三月一日より續々之を紙上に公にす可し但し原稿の校正にも多少の時を費すべきなれば先づ一週間に二三回づゝの積りなり讀者若し此漫筆を見て余が微意の在る所を知り無形の智德以て居家處世の道を滑にし一身一家の獨立能く一國の基礎たるを得るに至らば望外の幸甚のみ明治二十九年二月十五日福澤諭吉記

時事新報

東京の地面

開國四十年來一般社會の變遷進歩は今更ら驚くに堪へたる中にも經濟上の變化は特に著しきものゝ如し例へば開港の當時に於ては日本人は金銀の價を知らず小判一枚を銀四枚と交易して外國人に非常の利を貪られながら自から悟らず又生絲の如きも銘等の買ふまゝに賣却して價の如何に頓着せず只賣るゝの多きを喜びたる次第なりしに今日に至りては人々金銀の價を明にして斯る愚を演ずるものとてはなく又生絲の輸出も世界普通の直段を問ふて實賣を決するみとゝなれり又金利の如きも月二十五兩一分即ち年一割二分の利息を公定の率として貸借の紛紜より訴訟沙汰なども及ぶときは以下にして現に法律上の定率は六分なりと云ふ又米價の如きも往時に在ては國内限りにて價の定まりたるものが今は然らず廣貴すれば自から外國米の輸入を來し下落すれば自から内國米の輸出を見る可し何れも實際の事實にして世人の熟知する所、四海交通の今日、諸般の物價の如き世界を通じて次第に平均せざる能はず經濟上自然の大勢なるに然るに茲に法外なるは我國に於て地面の價の低廉なる一事なり田舍の地方は姑く措き東京の地價を如何と云ふに府下の中心なる日本橋近邊にて一坪五六十圓内外が最高の直段なりとは驚入る事實ならずや抑も我東京は人口の數より見るも又繁華の點より見るも倫敦、巴里、ニューヨーク伯林、聖彼得堡等の上に出づるは決して疑ふ可らず而して彼の都會の地價を算するに坪を以てするが如きは曾て聞かざる所にして現にニューヨークなどにては一方尺三百何十弗にて賣買の場所さへありと云ふ一方尺三百弗とは自から格別の場合ならんかなれども以て一般の有樣を想見するに足る可し然るに東京は世界に於て第四と下らざる大都會にてありながら目抜の場所にても一坪何十圓の價に過ぎず況して場末の如き外國都會の地價に比すれば殆んど無代價同樣と云ふも可なり實に法外の談にして事實に當す可らざる所なれば今後經濟社會の大勢に於て府下の地價が次第に騰貴を慣ぶし現在の幾十百倍の價を見るは斷じて疑ふ可らず但し今後何年にして其實を呈するか之を明言するは難しと雖も騰貴の事實は經濟上自然の大勢に徹して萬々疑なしとすれば今より此點に着目して大に地面を買入れ以て他年の價を待つは利殖家の事なる可し或は普通の商人の如きは資本の運轉甚だ忙しく他より融通するなどの場合もなきに非ざれば其資本を土地に下して永遠の利を期するが如きは迚も望む可らざる所なれども彼の大華族もしくは素封の大家の如く單に公債の利子に安んずる人々などには最も適當の利殖法と云はざるを得ず或は未來の事に金を投ずるより現在の公債を所有する方、安全なりなど云はんかなれども公債の如きは今後幾年を經るも其價は依然として格別騰貴の見込なきに反し地面の騰貴は萬々疑なきのみか安全の點より云ふも公債と同日の談に非ず我輩の慥に保證する所なれば其人々にして永遠の計を爲さんとならば愛に一大會社を起し幾千萬の資本を蒐めて大に地面を買入るゝの計畫あを目下の至計なれ而していよ〳〵實行に就ては自から種々の方法もあらんなれども先づ差當り外國に人を派遣し都會の發達、地面騰貴の次第を統計と實地とに由りて詳細に調査せしめたる上、豫算を立て計畫を定めて徐ろに着手するみと事の順序を得たるものなる可し華族素封家の人々に對して我輩の敢て勸告する所なり

雜報

○京城通信（十六日發）

居留民の警戒

去る十一日の事變と共に眞僞をみさ混せたる風說紛紜として起り底止する所を知らず甚しきは我公使の身の上に異變ありたりなど云ひ觸らして人心恟々何れも明治十七年の當時を回想して居留民一般非常の恐怖を抱き泥峴居留民は領に總代役場に集まりて自衛の策を講じ先づ壕方に開店せるものを泥峴に引き揚げしめ夜中は巡査及び有志者を以て泥峴より南大門へ掛けて非常警戒線を張り各戸とも夕暮より戸を閉ぢ武器を用意して萬一に備へ事變の翌十二日は別に變りたることなかりしも人心何となく落着かず憂懼の中に日を暮らしたりしに夜に入りて[illegible]驚き立ちし所も折南大[illegible]れたりとの風說を流布[illegible]なりき居留民が十七年[illegible]が始めにて日本刀を携[illegible]

外國兵

兩三日前利川地方を視[illegible]話に去月二十日該地方[illegible]後各地に分れ行きたる[illegible]したるものあり又今回[illegible]る等の事なく糧食を[illegible]貧擔となさしめ日本人[illegible]任命したる官吏を放逐[illegible]徒は概ね各村の獵師[illegible]を五百メートルまで進[illegible]の比にあらず其他閔族[illegible]嗾し外國兵も亦其中に[illegible]

金宏集と日[illegible]仁川居留民總代古田氏[illegible]なる故去る九日上京[illegible]の談話の序に古田氏は[illegible]扶植する誠意より日本[illegible]りたるに金氏は流涕せ[illegible]後二日を出でずして事[illegible]後小民の侮辱を受く築[illegible]し得ざる所なりなるさ[illegible]

電信と電信不通となり郵便線[illegible]當分の中脚夫に兵士の[illegible]

○ニウス狀袋

は[illegible]り發賣するものにて古[illegible]ものなり